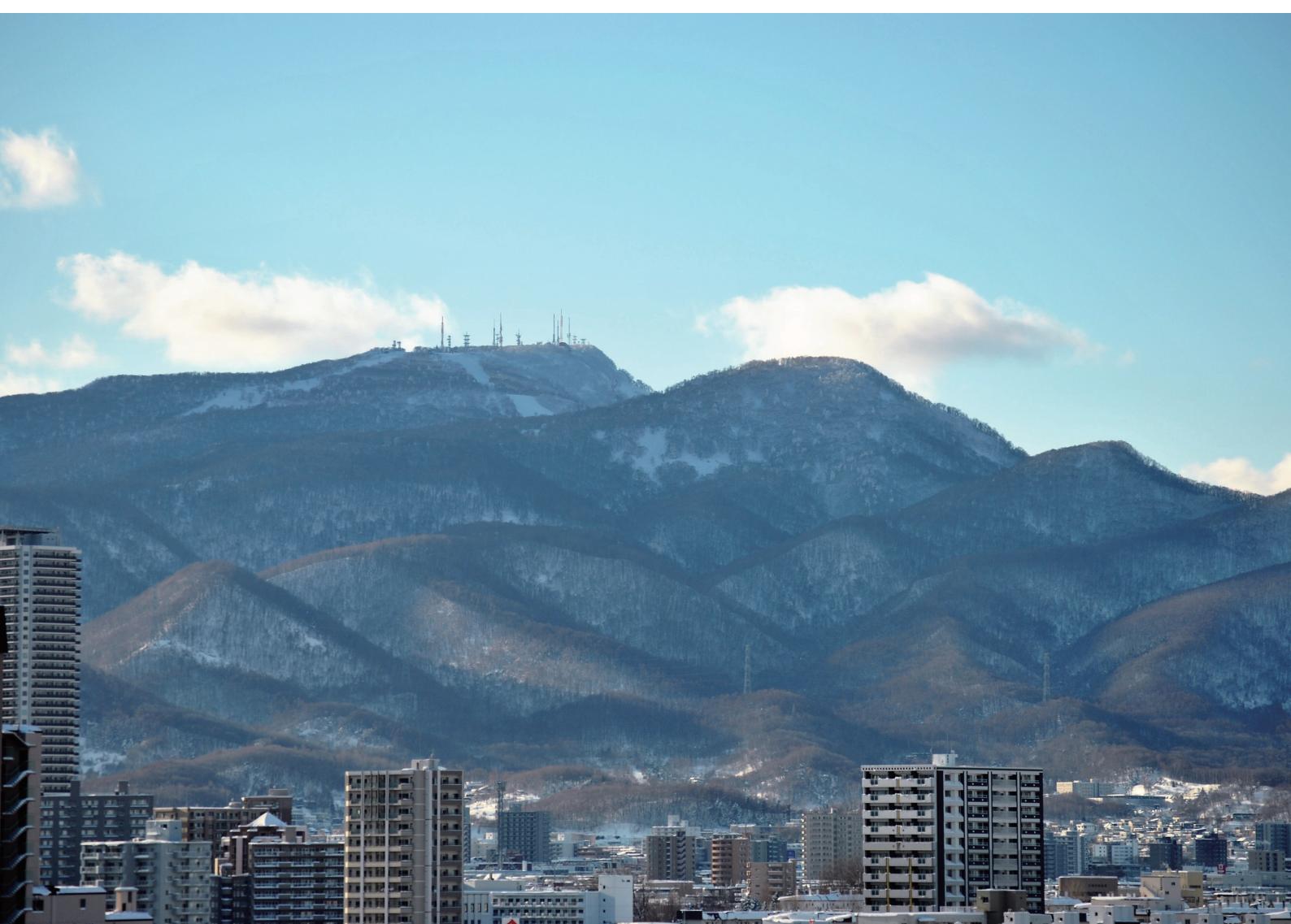


# Caduceus Information

# カデューシャス 通信 Vol.21

(平成28年12月号)



当院屋上より撮影(photo 総務課 白川 廉)



シンボルマークについて

当院のシンボルマークは、平和と医術の象徴であるカデューシャス (Caduceus)のつえを頭蓋骨穿孔器（ずがいこつせんこうき）に置きかえ、ヘビの顔は世界を知る意味で外へ向けています。翼の下にある**J**・**N**は脳神経外科 (Neurosurgery) のことを意味しております。

- ・院長室からこんにちは
- ・地域連携について
- ・外来看護師の活動について
- ・2016 札幌脳神経連携懇話会
- ・スタッフ紹介

# 院長室からこんにちは

## 院長 小柳 泉

皆さん、こんにちは。院長の小柳です。当院は1983年10月に開設されました。当時は三森院長、中川先生、桜木先生の脳神経外科医3人体制でスタートしました。翌年には北大脳神経外科の初代教授である都留先生が名誉院長



として就任されました。私はまだ北大病院の研修医でしたが、都留先生を迎える新しい病院ができたことをよく覚えています。初代院長の三森先生は、旭川医大の脳神経外科教室の設立時に講師として関わっていたこともあり、当院は旭川医大からも若手の脳神経外科医が定期的に勤務していました。2002年に会田先生が二代目院長に就任され、現在の基礎が固まりました。2012年には、現在の場所に新築移転し、急性期、回復期リハビリ、障害者病棟という、機能別の3病棟が設置され、手術機器や診断装置も最新のものになりました。

さて、私はというと、北大脳神経外科関連の病院をいくつか回り、海外留学も終えてから実は1996-2002年に当院に勤務しておりました。その後、10年間の札幌医大脳神経外科勤務を経て2012年に当院に戻り、2015年から“3代目”になりました。当院は、日本脳神経外科学会の専門医研修プログラムでは、北大病院を基幹施設とするプログラムの連携施設ですが、こうしてみると、道内の3医学部のすべてに関連する施設であることが実感できます。

現在の常勤医は、脳神経外科医8名、神経内科医3名、麻酔科医1名、循環器内科医1名になりました。脳卒中や頭部外傷、脊髄損傷などの救急疾患、脳腫瘍・脊髄腫瘍などの専門性の高い疾患、頸椎症や腰部脊柱管狭窄症などの高齢社会に伴って増加している脊椎疾患、パーキンソン病などの神経難病を含めたあらゆる脳・脊髄・神経疾患に対応できる病院になったと自負しております。例えば、腰痛は腰椎疾患でみられますが、実は頸椎病変やパーキンソン病の症状であることもあります。手足のしびれは、頭蓋内病変、脊椎脊髄疾患から末梢神経疾患にいたるまで鑑別が必要です。手術治療は、手術用顕微鏡によるマイクロサージャリーを基本として、多くの開頭手術、血管内手術、脊椎・脊髄手術、末梢神経手術を行っていますが、正確な術前診断と手術適応の十分な検討が重要と考えております。

当院のモットーは、開院以来、「患者第一」です。その意味は、“患者さんを幸せにする”ことでしよう。そのため、当院のみで不十分な部分は、積極的に北大病院をはじめとする連携病院との提携を行っています。今年は、北海道日本ハムファイターズが日本一になりました。当院も、高度な医療の提供と共に、“日本一患者さんが幸せになる病院”を目指して、職員一同がんばっていきたいと思います。

# 地域連携について

医療相談室 MSW 大島秀幸



当院では医療相談室に社会福祉士を配置しており、院内・院外の連携を主な業務としております。我々は一般的に医療ソーシャルワーカーと呼ばれ、主に保健医療機関において社会福祉の立場から患者様やご家族が抱える経済的・心理的・社会的問題の解決、調整を援助し、社会復帰の促進と自立生活の継続を図る業務を行います。

一般的に社会資源と呼ばれるものがありますが、社会資源には制度や病院・施設、役所や人、そしてその人が持つ知識や技術なども広域で含まれます。問題解決を図るために色々な社会資源を利用していく事となるのですが、多くの患者様はどんな社会資源が存在するのか、どのようにそれを見つけ出し利用するか知らない方も多いと思います。そこで医療ソーシャルワーカーは個人に合った社会資源を見つけ出し、側面的に援助していく事が求められます。例えば「介護保険とは?」「高額医療費って?」「身体障害者手帳が欲しい」「入院費が払えない」など様々な疑問をお持ちの方が多いと思います。まずは患者様・ご家族が疑問に思ったことを傾聴し他機関(役所など)とやり取りを行い、必要な情報提供を行うのですが、中には自分が所属する機関では引き受けられない内容もあります。しかしそのような場合でも事情に合った機関を探し、解決までの道のりを付けることがとても大切です。

## 【連携】

・病院が行う連携についてですが、大きく分けると3段階あります。

- ①同じ機関内の職員 ②他機関の関係職種 ③機関に属さない一般市民

上記の立場を理解しながら「病院のネットワーク」「民生委員、地域住民のネットワーク」「介護保険のネットワーク」「行政のネットワーク」などと繋げるわけですが、一番大切にしなければならないことは患者様の個人の利益を守るという事です。連携を行う場合は目的を持つという事が求められます。

## 【情報の共有】

連携を行う中で注意しなければならないことは、個人情報とプライバシーの問題です。

ほぼ全ての病院は「個人情報取扱業者」として認定されている為、個人情報を利用するためには事前に本人の許可が必要となります。2005年4月1日に全面施行された「個人情報の取り扱いに関する法律」が根拠となるため、情報の連携を行う際は十分な注意を払っております。しかし中には例外があり、最近ニュースでも話題になることがある「高齢者虐待」についてです。医療機関は虐待の疑いのある高齢者を患者として受け入れる可能性があり、また高齢者虐待を発見しやすい立場にあります。そのような場合は居住区の市区町村または地域包括支援センターへつなぐ事となるのですが、この場合個人情報保護法より高齢者虐待防止法に明記されている通報の義務が上回ります。(高齢者虐待防止法第7条1項)

こうした様々な制度や法律を理解したうえで連携は行われるのです。

## 【主な連携先】

普段行われている主な連携先としては病院(クリニック・急性期・回復期・慢性期)、介護施設(老健・特養・グループホーム・有料老人ホーム)、地域包括支援センター、役所、保健所、介護サービス業者(訪問看護・デイサービス等)などがあります。

まずは困ったことがあれば、当院1階にある医療相談室に医療ソーシャルワーカーがありますので、お気軽にご相談ください。

# 外来看護師の活動について

～在宅療養支援・地域連携に力を入れて取り組んでいます～

外来師長:本間 美和 外来看護師:辻 ひとみ、脇坂 貴子、青木 美奈子

外来は病院の顔と言われており、私達は日頃から、「患者様やご家族が安心かつ満足できる医療」を提供できるように心掛けています。受付から、問診、検査や診察という流れがスムーズに行われるよう、患者満足度調査の結果を踏まえた改善にも取り組んでいます。

接遇には特に力を入れており、患者様やご家族との職員の信頼関係が築けるよう、接遇によるサービス向上を目指し、日々努力しています。また、看護師の知識や技術の向上を目指して、各種学習会を開催し、院内・院外の研修会にも積極的に参加しています。



## 療養支援・相談

外来では、脳卒中後や神経内科疾患などをお持ちで、生活習慣や服薬習慣を整える必要のある患者様へは、看護師が患者様主体の看護計画を立てて、患者様やご家族自らが健康管理のための行動を実行できるように支援しています。

脳卒中の再発予防教育に力を入れているほか、脳疾患や神経内科疾患をお持ちの患者様やご家族の不安や悩みに寄り添い、家族看護という視点でも支援させて頂いています。

また、当院を退院された患者様には、退院後の外来受診時に話を伺い、在宅生活が安定して続けられるよう引き続き支援する体制をとっています。今後は、退院前訪問や退院後訪問も行い、患者様の在宅生活に即した支援が出来るように取り組んでいきたいと考えています。

## 地域連携

患者様が安心して自宅で療養生活を送るためには、地域との連携が必要です。外来では、積極的に訪問看護師やケアマネージャーと情報交換を行い、薬の管理や服用方法・介護方法・サービスの利用調整など、連携を取りながら患者様に合った支援を共に考えています。訪問看護師やケアマネージャーとの連携をどのようにしていくかさらに患者様への充実した支援ができるのかを探るために、先日数名の看護師が訪問看護ステーションで研修を受けてきました。

患者様やご家族が、私達外来看護師を身近に感じて、気軽に療養相談をして頂ければ、と願っています。相談はいつでもお受けしますので何かありましたらお近くのスタッフに声をかけてください。

# 2016 札幌脳神経連携懇話会

副院長・地域連携室室長 今村 博幸



11月17日(木)、東京ドームホテル札幌クレストホールにおきまして「2016 札幌脳神経連携懇話会」を開催させていただきました。この会はこれまで「北海道脳神経外科記念病院病病・病診連携の会」と称して過去6回行われた講演会を、今回は名称を変更して開催したものです。当院の診療の現況を近隣の医療機関の方々に知っていただくことを趣旨に行っており、新病院として西区に移転してからは2回目になります。

講演の内容は、脳・神経疾患としてはいずれも重要であり、かつ話題性が多く、一般市民の方々にも関心の多い疾患に対して、私どもがどのように取り組んでいるかを伝えるものであり、当院の3人の医師が講演を行いました。3人ともそれぞれ各分野において最先端の診療を行っているエキスパートです。

まず初めに青樹毅脳神経外科副院長より「心原性脳塞栓症はこの10年でどう変わったか—急性期治療と抗凝固療法—」という題名で、最近増えつつある不整脈、特に心房細動を原因とする脳梗塞について、治療法と予防法についてお話しさせていただきました。続いて小柳泉病院長より「脊椎・脊髄疾患の臨床」という題名で四肢のしびれや筋力低下を訴える患者さんに対してどのように治療しているかを、整形外科との比較も行いながら説明させていただきました。最後に緒方昭彦神経内科副院長より「認知症の鑑別と治療」という内容で、アルツハイマー型認知症を中心にその類似疾患も含めて解説いたしました。



講演会終了後は、情報交換会にてご出席いただいた方々と懇親を深め、日ごろ感じておられる脳神経疾患についての問題点について聞かせていただきました。



当院では今後もこのような講演会を逐次開催していく予定です。

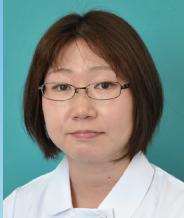
# ス タ ッ フ 紹 介



## 2階病棟 看護主任 柴田育絵

2階病棟で勤務させていただいております。パートを経て、入職4年目となります。

学習の場と、沢山のチャンスを与えてもらい、より良い療養生活を目指して活動しています。病と闘い、様々な不安を抱えた患者様や家族の皆様の気持ちを少しでも癒すことができるよう、誰からも気軽に声をかけていただけるように笑顔を忘れず務めていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。



## 外来 看護師 高木 夢津美

こんにちは、入職して外来に入り2年目となります。私は人の嫌がる事をしないということを自分のルールとして生きてきたつもりですが、看護技術のなかには注射や傷の洗浄などの患者様にとって辛く嫌なことを行う場合があります。

この、患者様が「嫌だな」と感じる処置を少しでも「あ、なんだか大丈夫だったかもしれない」と思ってもらえるような、心と体の両方のケアが出来ればと思い、日々奮闘しております。まだまだ未熟な身ではありますが、外来の素敵なお先輩方に支えられて勉強しております。いつか自分も周りの人の心を穏やかにできるような、素敵なお看護師となれるように頑張りますので、これからもよろしくお願いいたします。



## 薬剤科 薬剤師 濱戸 亘

2014年4月、新卒として当院に入職し今年で3年目となります。

現在は急性期病棟担当として、脳血管疾患、脊髄脊椎疾患の患者さんと関わる日々を過ごしています。病棟では服薬指導を中心に、薬物療法が行われている患者さんに対し、薬効の評価、薬剤使用による有害事象が起きていないか、病棟で直接患者さんと向き合いながら確認をしています。同じ疾患でも、人によって最適な薬剤は異なります。チーム医療の一員として、医師、看護師、その他スタッフと協力しながら、その方にとって最適な薬物療法が行われるように支援していきたいと思います。薬に関する不安、疑問などがあれば遠慮なくご相談ください。



## 臨床検査科 臨床検査技師 金子 恵理子

臨床検査科は男性2名、女性3名の計5名が所属し、業務内容は大きく生理検査と検体検査の二つに分けられ、検体検査はブランチラボという体制をとっています。

生理検査は脳波検査、体性感覚誘発電位検査、心電図、ポリグラフ、呼吸機能検査など、検体検査は血液一般、血糖、ヘモグロビンA1c、血液ガス、生化学検査、交差適合試験などを行っており、他には手術中にモニタリングを行うこともあります。

少ない人数ですが、日々の業務はもちろんのこと、時間外や日祝祭日はオンコールで対応しています。

患者さまと接する機会が決して多いと言えない私たちですが、診療・診察のお役に立てるよう日々がんばっていますので、検査のことで相談、困ったことがあればいつでも気軽に声をかけてください。



## 医療秘書課 主任 森 葉子

平成28年4月より医局秘書として勤務しています。医局での業務は主に医師のサポートです。診療以外の業務も多い医師のスケジュール管理などを行っており、院内の他部署との連携が非常に大事だと日々実感しています。医師がスムーズな診療を行える環境づくりを心掛けています。患者様やご家族と直接、接する機会はありませんが、安全かつ安心して治療が受けられるよう、環境を整える努力をしていきたいと思います。

# 外来診療体制

～平成28年12月1日木より診療体制が変わりました～

## 外来担当医表

	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT				
						第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
午前	脳神経外科 会青樹今 会田柳谷 会小柳 吉野	会青樹今 会田柳谷 会小柳 吉野	会青樹今 会田柳谷 会小柳 吉野	会青樹今 会田柳谷 会小柳 吉野	会青樹今 会田柳谷 会小柳 吉野	今村 青寺 千葉 長内	鎧谷 柳坂 千葉 内	会田 千葉 内	鎧谷 柳坂 千葉 内	交代制
	神経内科 緒方水 緒方水 緒方水	緒方水 輿水 緒方水	緒方水 輿水 緒方水	緒方水 輿水 緒方水	緒方保 新保 新保	休診 休診 休診	輿水 休診 休診	休診 休診 休診	休診 休診 休診	休診
	循環器内科 皮膚科	野村(10:00~12:30) 田代	野村(10:00~12:30)	野村(10:00~11:30)	野村(10:00~12:30)	野村(10:00~12:30)	野村(10:00~12:30)	野村(10:00~12:30)	野村(10:00~12:30)	休診
	脳神経外科 神経内科 循環器内科	遠藤青 吉野 新保	小柳 吉野 新保	千葉 上森 大楓 緒新 方保	吉野 本宮 宮	今村 (14:00~16:00) 吉野	休診	休診	休診	休診
午後	皮膚科	野村(14:00~17:00)		野村(14:00~17:00)		野村(14:00~17:00)				休診

注)循環器内科、野村医師の診察は再来と紹介予約のみとなります

## 受付・診療時間

### ◆午前の診療

受付は、平日が午前8時40分から11時30分まで  
(※土曜日は午前8時40分から12時30分まで)  
診察は、午前9時より行います

### ◆午後の診療

受付は、午前11時30分から午後5時まで  
診察は、午後2時より行います

- ①お電話での予約の申込みや変更は、受診希望日の前日までに下記電話番号へご連絡ください。  
**TEL:011-717-2131 月曜日～金曜日(11時～16時)**
- ②当院の予約は、来院時間を調整するものであり、必ずその予約時間に診察をお約束するものではございません。何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。
- ③予約をされていない場合でも、診察させていただきます。
- ④患者様の症状等によって診察の順番が前後したり、急患の対応等で診療開始時間が遅れることがありますのでご了承下さい。
- ⑤診療医師が不在の時は、他の医師が診察させていただきます。不在日は掲示板にてご確認下さい。このほか、緊急手術等によりやむを得ず診療医師が変更する場合があります。ご理解とご協力ををお願いいたします。
- ⑥当院は**24時間救急対応**をいたしております。  
急に具合が悪くなったときは、夜間・休日問わず電話連絡の上、いつでもご来院下さい。  
**TEL:011-717-2131**

## 歯科

院内歯科では、外来はもとより入院中の患者様の治療も行っています。

### 診療時間

月・水・金	10:00~13:30	15:00~18:00
火・木	10:00~13:30	15:00~20:00
土	10:00~14:00	

### 休診日

第2・第4土曜日、日曜日・祝祭日

### 歯科直通

ナインムシバ

**TEL&FAX:(011)717-1648**

### 理念

1. 患者様第一を旨とし、患者様とご家族に安心と満足を提供致します。

### 基本方針

- 1. 分かりやすい医療情報を提供致します。
- 2. 病々・病診連携を推進致します。
- 3. 根拠に基づいた最新の医療を提供致します。
- 4. 24時間365日に救急医療体制を提供致します。
- 5. 健全な病院経営と効率化に努力致します。
- 6. 安全な医療を提供出来るよう職員の安全教育に努めます。

### 患者様の権利

私たちは患者様の権利を尊重します

- 1. 患者様の意志および人権は守られます。
- 2. 患者様は十分に納得出来るまで説明を受けることが出来ます。
- 3. 患者様は治療方法を選択することが出来ます。
- 4. 患者様は平等で適切な医療を受けることが出来ます。
- 5. 患者様の医療上の個人情報は守られます。
- 6. 檢査、治療にあたっては、他の医療機関での説明を得る事(セカンドオピニオン)が出来ます。

## Caduceus Information

私たち 北海道脳神経外科記念病院は、

脳・脊髄・末梢神経の疾患を

急性期からリハビリテーションまで

総合的に診る病院です。



### 交通アクセス

- ① 地下鉄南北線「北24条」駅から中央バス 北72  
または 西51「南新川」下車
- ② 地下鉄東西線「二十四軒」駅からJRバス 軒32  
「八軒8条東4丁目」下車
- ③ 地下鉄南北線「さっぽろ」駅13番出口を出て右、  
西武デパート跡地南側から中央バス 西71「南新川」または 西51「北22条西15丁目」下車

## 医療法人社団 研仁会 北海道脳神経外科記念病院

〒063-0869 札幌市西区八軒9条東5丁目1-20 TEL.011-717-2131 <http://www.hnsmhp.or.jp>